

## 77 名大教養教育の源流を語る八高資料

戦前の旧制高等学校は、現在の高等学校とは異なり、少数のエリートを養成する学校でした。時期によって制度が変わりますが、おおむね16～17歳で入学、3年後に19～20歳で卒業して大学へ進学します。これは年齢的にも、大学で高度な教育をうける準備という意味でも、現在の主に大学1、2年生を対象とする教養教育に相当します。

そして、戦後の学制改革で新制名古屋大学に包括され、教養部の母体となった第八高等学校（八高）は、名大教養教育の源流といえます。教養部は1993(平成5)年に廃止されましたが、現在は教養教育院の下、全学の教員が全学教育科目の講義をおこなっています。

大学文書資料室では、八高に関する多くの資料を所蔵しています。資料室が独自に収集したもののほか、前号でもふれたように、3年ほど前から八高会を通じて、卒業生の方々から約580点もの貴重な資料の寄贈をうけました。八高は、いわゆるナンバースクールの1つとして、旧制高校

の中でも古い歴史を持ち、高い格式と教育水準をほこっていました。これらのコレクションは、名大の歴史を語るだけではなく、日本の高等教育史を語る貴重な資料群でもあります。

今年、大学文書資料室では、博物館との共催により、ホームカミングデイをはさむ10月7日から11月8日にかけて、八高の歴史をその学生生活を中心にふりかえる企画展示をおこないます。会場は博物館です。

そこでは、資料室所蔵の八高資料のうち、特に貴重なものを厳選して展示します。さらに、名古屋市博物館にも八高に関する資料が所蔵されていますが、今回はこれらを同館から借用して展示する予定です。

今回の企画展示により、今年の八高創立100周年を記念すると同時に、来年の名大創立70周年記念事業を盛り上げる一助とできればと思います。



- |   |   |  |
|---|---|--|
| 2 | 1 | 1 第1回卒業生（工科2組＝第2部甲2組）記念写真（1911年、大学文書資料室所蔵） |
| 3 |   | 2 戦時期の八高関係資料（1940～42年、大学文書資料室所蔵）           |
|   |   | 3 理科6組のクラス日誌（1943～44年、大学文書資料室所蔵）           |